

第2回懇話会 会議要録

- 日時 平成27年11月24日（火）午後2時30分から3時30分
- 会場 和光市役所6階 602会議室
- 出席者 田中明会長、戸部正子副会長、伊藤弘嗣、守谷ふみ子、澤村尚子、曾我部賀章、内田英雄（敬称略）
- 欠席者 吉田邦子、高木茂、北尾和典（敬称略）
- 傍聴者 1名
- 事務局 人権文化課長 寄口、人権文化課課長補佐 本多、文化国際担当主事 登島

1. あいさつ

- ・和光市企画部人権文化課長 寄口 昌宏

2. 議題

（1）和光市国際化推進懇話会報告案について

事務局：資料1「和光市国際化推進懇話会報告案」、資料2、第二次和光市国際化推進計画素案について説明。

田中会長：事務局から説明があったが、質問や意見のある方はいるか。

伊藤委員：提言書（資料2）の文章構成について。「1 国際化推進の施策について」とかいてあるが、その後、「2」「3」・・とは続いていないため、書式を整えてはどうか。たとえば、「国際化推進の施策について、以下のとおりとする。」と書き、その下に「記」と書いて意見を並べ、意見の番号については、「1」を使っているのであれば「(1)」と書いてはどうか。資料1については、文書構成は問題ないと思う。現在の文書でも理解はできるが整えてはどうか。

事務局：そのように文章を整えたいと思う。

守谷委員：提言書の⑤の「・・外国から訪れる方に対し・・」の文章について、「の」は不要ではないか。

事務局：「の」が不要であるため、訂正します。

澤村委員：前回の話し合いでは出てこなかったが、和光市駅では何ヶ国の言語でアナウンス（構内放送）や時刻表の表示がされているのか。計画の中に、「オリンピックやパラリンピック開催にむけた通訳の充実化」とあったため、朝霞でオリンピックが開催されるのであれば、駅でのアナウンスや情報提供を充実したら良いのではないか。

守谷委員：おそらく一ヶ国（日本語）だけだったと思う。

田中会長：構内自体は日本語のみである。車両内は、日本語と英語のアナウンスがある。

事務局：沿線協議会というものがあり、政策課が加入している。要望を出してはいるが、なかなか通らない。だが、東武鉄道も恐らく2020年に向けて考えてはいると思う。

澤村委員：たしかに、東武鉄道も考えていると思うが、少し頭に入れておいた方が良いと考えられる。なぜなら、3.11の時もそうだったが、台風等の際、駅が止まったりした時、その情報が全く入らない。そのため、理化学研究所の方は情報ネットワークというも

ので、現地に行った人が写真を撮って随時鉄道運行状況を共有していたが大変だった。よって、電車など交通機関に関する情報も重要である。計画の中の緊急時の防災体制としてこういった内容も入ってくるのではないかと思った。

事務局：たしかに、東日本大震災の際、計画停電については市のHPで案内を英語版でも作成したが、重要なのは震災直後ですよね。

澤村委員：防災については市役所だけではなく、消防や警察との連携も必要だと思う。

この前フランスの事件があったが、日本もこれから対象となってくると思うのでリスク管理が必要となってくる。

曾我部委員：和光市に外国人が2,000人いると思うが、最初に住む町が埼玉の和光市というのは一つの橋場としていいと思う。しかし、外国人に対しての支援とか表面的な良いことばかりとなると必ずリスクが伴ってくると思うため、考えるべきことがあるのではないかと考えている。

事務局：さきほどの澤村委員の意見についてだが、計画案のP.17の(2)のイ、ウに該当すると考えられる。そのため、災害時についてはその部分を意識するよう、それぞれ関係先(担当課等)に周知し、意識を上げるようにしたらいいのではと考えている。

澤村委員：そうですね。あとは、逆に日本人側の意識として、外国人に対して排他的な感じにならないよう、文化の違いなど日本人側に対する教育等の準備も必要なんじゃないかと思いはじめた。なぜなら、フランスのテロの時に感じたのだが、日本は多民族ではなく、基本単一民族であるため、異文化に対する免疫がない。様々な人が押し寄せて、いろんな問題や難民とかの受入なども徐々に出てくると思うがそういった異質なものがきた時に、「だからこういう事件が多くなった。」と言った、ヘイトスピーチではないが、排斥にならないよう、事前に色んな違いに対する知識や心構えを身につけ、その上でお互いをリスペクトしながら、どのように共存・共生していくか・・といった、教育的なことを日本人側のほうが準備していく必要があると思う。外国人を受け入れて、もちろんサポートはするが、同時に様々なことがありえるため、どこかで排斥に走ってしまっただけではいけないと感じた。

事務局：多文化理解教育ということですね。大人も含めた教育ですか。

澤村委員：そうです。大人も含めた教育です。

田中会長：部分的には公民館単位で、多少なり多文化理解教育をやっていますよね。様々な国の料理を通して学んだり、言葉を学んだりしていますよね。

事務局：はい、そうです。市民団体の和光国際交流会が国際理解に関する講座等を行っています。

守谷委員：子供が学校ではそういった授業等を受けても、大人がそういったことをやっていないと、大人の影響は大きいので、やはり大人の方も意識を高めた方が良いと思う。

澤村委員：私自身、理化学研究所において20年以上国際化関連の業務を担ってきているが、一番難しいのは日本人の事務の方々に海外の方を受け入れること、違いがあるということに対する理解をしていただくことである。和光市においても同じなのではないかと感じている。ここにいる委員の方などは、いろんな意味で海外のことや外国人のこと、色んな国々に対して意識があると思うが、決してそのような日本人ばかりではないので、日ごろからオープンに違いを受け入れていくことが出

来るような、講習やレクチャー、プレゼンなどが盛り上がると思います。

事務局：計画の中には、大きな部分で国際理解教育の推進はあるが、何か具体的なものはありますか。

澤村委員：具体的には講演など。例えば、日本に長期滞在しており、テレビなどにも出ている有名な外国人がたくさんいらっしゃると思います。例えば、元コメディアンハーバード大学出身のパクン（パトリック・ハーラン）。彼はコメディアンとして来日したが現在は、東京工業大学の非常勤講師をされている。こういった方を招待して講演などを開くと面白いのではないかと思います。

事務局：それでは、提言に盛り込みましょうか。

澤村委員：「国際理解の風土を構築していく」という形で、具体的例として日本に根付いている有名な外国人の方々を招待して講演会を開く等、といった感じはどうでしょうか。欧米系の方だけでなく、もちろんアジア圏にもいらっしゃると思う。様々な国の方を呼ぶ必要があると思う。

事務局：「国内の著名な外国人による講演などを通して、国際理解教育を進めてほしい」ということでよろしいですか。

澤村委員：重要なのは「風土を作っていく」というところですね。異文化の違いを受け入れていくために、例えば著名な外国の方々を呼び講演会などを開くなど。

事務局：「国際理解の風土を醸成していく」ということですね。

澤村委員：そうです。

戸部委員：年代を小学校・中学校に限定するのではなく、大人も含めた幅広い年代の方が参加できるような会などを開くということですね。

事務局：「年代を問わず、幅広い市民に対して異文化を受け入れていく風土を醸成していただきたい」、具体例として日本在住の著名な外国人による講演会の開催ということですか。

澤村委員：そうですね。「著名な・・・」というのは、例えばアジアや欧米の方で、人種の幅は広くしておきたい。今、黒人の方でもテレビに出ていることがあるため、そういった方も含めて。肌の白い人だけだと偏ってしまう。

伊藤委員：具体例についてだが、例えば「日本在住の外国人がどのようなことを感じ、求めているのかについての講演会を開催する」はどうですか。

戸部委員：私たちが何か考えてするだけではなく、外国人からの要望や感じたことに耳を傾けるということですね。

澤村委員：講演をする方は外国人だけではなく、専門家もいるため専門家も含むと良いと思う。

田中会長：他に意見はあるか。

全員：なし。

田中会長：次に次第2「その他」だが、事務局から何かあるか。

事務局：今後の報告までの流れとパブリック・コメントの説明会と募集について説明。

田中会長：他にあるか。内容なので、これで第2回懇話会を終了する。ありがとうございました。